

所沢市子ども・子育て会議
(平成25年度第3回)

会 議 録

平成26年2月14日

会 議 の 名 称	所沢市子ども・子育て会議（平成25年度第3回）
開 催 日 時	平成26年2月14日（金） 午前10時00分から午後0時10分まで
開 催 場 所	市役所高層棟6階 604会議室
出 席 者 の 氏 名	（会議録別表1）のとおり
欠 席 者 の 氏 名	高田 美智子（所沢市民生委員・児童委員連合会） 五十嵐 俊昭（所沢商工会議所） 草刈 由美子（連合埼玉西部第四地域協議会） 本橋 奈穂子（市民公募）
説明者の職・氏名	株式会社 シンクタンクみらい XXXXXXXXXX
議 題	議事 （1）ニーズ調査の集計結果について （2）ニーズ調査結果を踏まえた計画への反映について （3）『（仮称）所沢市子ども・子育て支援事業計画』の位置づけと枠組みについて （4）その他
会 議 資 料	・ 議事次第 ・ 資料1：子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果について ・ 資料2：ニーズ調査結果を踏まえた計画への反映について ・ 資料3：『（仮称）所沢市子ども・子育て支援事業計画』の位置づけと枠組みについて ・ 資料1の補足資料
担 当 部 課 名	仲こども未来部長 石井こども未来部次長 こども支援課：浅見課長、山崎副主幹、肥沼主任、岡崎主任 保育課：市川課長、松崎主査 青少年課：堀内課長、中主査 （事務局）こども未来部こども支援課 電話 04-2998-9124

(会議録別表 1)

所沢市子ども・子育て会議委員会名簿

	氏 名	出欠席状況	選出母体等
1	根ヶ山 光一	出席	早稲田大学人間科学学術院
2	加賀谷 崇文	出席	学校法人 秋草学園 秋草学園短期大学
3	広瀬 正幸	出席	埼玉県所沢児童相談所
4	平塚 俊夫	出席	所沢市立小中学校校長会
5	高田 美智子	欠席	所沢市民生委員・児童委員連合会
6	粕谷 治彦	出席	所沢市 P T A 連合会
7	小沢 貞泰	出席	放課後こども健全育成基本方針運営委員会
8	松永 隆樹	出席	所沢市私立幼稚園協会
9	喜多濃 定人	出席	埼玉県保育協議会
10	渡邊 秋則	出席	家庭保育室
11	牧 裕子	出席	地域子育て支援拠点事業運営団体
12	金丸 慎一朗	出席	放課後児童健全育成事業運営団体
13	五十嵐 俊昭	欠席	所沢商工会議所
14	渡辺 良雄	出席	所沢地区労働組合協議会
15	草刈 由美子	欠席	連合埼玉西部第四地域協議会
16	本橋 奈穂子	欠席	市民公募
17	仲 直子	出席	市民公募
18	平山 寿代	出席	市民公募
19	北田 奈巳	出席	市民公募
20	大鷲 賛美	出席	市民公募

発 言 者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>～ 開 会 ～</p> <p>委員紹介（新任者）</p> <p>会議成立の報告</p> <p>会長挨拶</p> <p>資料の確認等</p> <p>傍聴者入場(9名)</p> <p>議事</p> <p>(1) ニーズ調査の集計結果について</p>
事務局	～ 事務局より資料1に基づき説明 ～
会長	多大な資料で、説明も理解もついていくのが大変だと思いますが、所沢市にお住まいの方々の実態が鮮明に出ている結果、切実な思いも伝わってくる結果ではないかと思えます。ご質問、ご意見はありますか。
委員	就労状況について(8頁)、フルタイムで就労している母親で産休中が8.2%とのことですが、かなり高いと感じますが、事務局ではどのような感想があるかお聞きしたいと思います。
事務局	フルタイムで就労していて、なおかつ産休中の母親が8.2%というのは、想像よりも多いかなと感じます。別の設問で、産休の制度がない、あるいは産休を取りづらい環境だったというお答えが多かった中で、実際に産休を取れている方がこれだけいるというのは意外な感じはしております。
会長	付属資料にもありましたが、就学前児童として子どもの年齢は0歳から6歳まであり、分母が0歳という集計もしておく必要があると思えます。
事務局	年齢別の就労状況についてはまだ集計していませんが、今後集計を行い、分析を行いたいと思えます。
委員	定期的な教育・保育事業の利用状況(11頁)で、「利用していない」が45.3%となっていますが、対象となった就学前児童の年齢で0歳から2歳までが多いということを見ると、0歳から2歳まで保育園を利用している方は利用していると答え、幼稚園を予定している方は利用していない

事務局	<p>と答える方が多くなる結果だと思えます。できれば、保育園を利用している家庭と保育園を利用していない家庭で分けて集計をした方が分かりやすいのではないかと考えます。</p> <p>今回のご報告は、設問ごとに単純集計結果を示しているものでありまして、今後、ご指摘いただいたようなことも含めた分析を進めていきたいと考えています。</p>
会長	<p>本日は、報告いただいた単純集計結果に基づき、さらにこのような分析が必要といったご意見があれば、お願いします。</p>
委員	<p>現在、利用している教育・保育事業の種類(12頁)で、保育園も幼稚園もほぼ45%となっていますが、その施設を選んだ理由(14頁)で、保育園、幼稚園が一緒の集計結果となっており、通っている場所により理由も違うと思えますので、それぞれ分けて分析をしていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>幼稚園と保育園との違いというのも分析の視点として取り入れたいと考えています。</p>
委員	<p>就学前児童で放課後の過ごし方(26頁)と小学生の放課後の過ごし方(30頁)で、小学生は低学年、高学年と大まかに仕分けられていますが、実際、来年度就学予定の子どもを持つ親として、1年生と3年生でも過ごし方はずいぶん違うのではないかと考えられ、そのような点も踏まえてこれから新しい制度をつくっていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>アンケートのとり方が、年齢別になっておりますが、そこから学年を推測してできる限りの分析は行いたいと考えています。</p>
会長	<p>追加資料では、学年で集計していますが、年齢・学年いずれにしてももう少し細かい分析をお願いします。</p>
委員	<p>現在の放課後児童クラブは、小学校1年生から3年生までを対象とするのが法的な根拠となっていて、今回の調査においては高学年でも在籍したいかどうかの傾向をみたいという設問の意図があるのではないかと考えます。平成27年度になると1年生から6年生までが対象となってくるので、ご指摘の点はその通りと考えますが、それが認知されるまでの期間ということもあろうかと思うので、現状の制度に照らし合わせて集計し、分析していくと理解しておくのがよいと思います。単純に言えば、例えば低学年の間は、週5日お願いし、高学年になれば習い事を週2日くらいさせるつもりであるという状況をここから読み取れることが重要かと考えます。全体的に、注意深くこの数字を読み取らなくてはならないと思っているのが、例えば、両親の同居の状況で、例えば別居というと夫婦が分かれてしまったかと思いがちですが、単身赴任などさまざまな事情があるわけ</p>

	<p>で、現れた数字を読む側が想像しなくてはならないと思います。そのような点を注意しないと、数字が一人歩きしてしまい、数字だけで良し悪しを判断するということになってしまいますので、そのあたりの注意が必要だと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>このような調査で、ある程度コンパクトにまとめて見やすくするということと、クロス集計などの分析を加えると複雑になってしまうという悩ましいところではありますが、事務局の方で、細かくするところは細かく分析し、まとめるところはまとめるという方向でお願いします。26頁などでは、縦軸が週何回であったり、時間であったり混乱しますのでクロス集計等の際には工夫をお願いします。見て分かりやすく、重要な情報は漏らさずということをお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>分けるべきところは分け、まとめてよいところはまとめるという方向で対応したいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>地域の子育て支援拠点事業の認知度、利用状況、利用希望(18頁)で、認知の状況は70%を超えているのに、実際の利用状況は50%を下回っているというのは、この調査の中で下回っているということでしょうか。それとも実際の施設の利用状況が下回っているということでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>この結果は、あくまでアンケート調査の結果ですので、アンケート上での利用状況の数字です。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどからの細かく分析するという議論で、私からお願いですが、放課後児童クラブ、放課後子ども教室、児童館などで、就労している家庭とそうでない家庭の利用の状況をデータとして出していただきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>対応したいと考えます。</p>
<p>委員</p>	<p>地域の子育て支援拠点事業の利用状況(17頁)で、実際若いお母さん達は子育てに不安があるという風に感じます。先ほど話しにも出しましたが、70%は知っているが、利用は50%を下回っているというのは、今後こうしたら利用しやすくなるといったようなことも浮かび上がってくるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現段階では、単純集計が終わったところなので、浮かび上がらせるためには今後の分析が必要かと考えています。</p>
<p>会長</p>	<p>事実は事実として、その対策を検討しなくてはならないので、分析の方をお願いしたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>放課後児童クラブを利用していない理由(31頁)について、その他が非常に多いですが、その理由をお聞きしたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>その他については、「保護者は就労しているが、子どもが帰るまでに帰</p>

委員	<p>宅するから」が一番多くなっています。その他として、「自営業である」、「子どもが学校以外で遊びたいから」、「習い事があるため」、「競争率が高い」などが挙げられています。</p>
事務局	<p>第1回会議の資料5で、保育児童数の推移(14頁)でタイトルは「保育児童数」ですが、文章では「入所児童数」という表現になっています。また、保育園利用率の推移(15頁)では、「保育児童総数」といろいろな表現が出てくるのですが同じ意味でしょうか。差し替え前の方が数値等も正しいのではないのでしょうか。もう一点、ところっこガイドで、ほうかごところについて記載がないのですがどうしてですか。</p>
会長	<p>ほうかごところはその対象が、その学校に通っているお子さんだけであるという点で誰でも利用できるわけではなく、また全ての学校で実施していないので記載していません。</p>
事務局	<p>第1回会議資料の指摘については、それを踏まえて今後どうするかという議論に向ければよいと思います。</p>
委員	<p>第1回会議資料の指摘内容については確認の上、次回にご報告したいと思います。</p>
会長	<p>定期的な教育・保育事業を利用しない理由(15頁)について、事業に空きがないから、経済的な理由、時間帯等の条件が合わないからなどがありますが、これについても幼稚園、保育園などで分けていただきたい。</p>
事務局	<p>これまでの議論と同様、分けて分析をしていただきたいと思います。</p>
会長	<p>できる範囲で反映させていきたいと思います。</p> <p>第1回会議資料の中で、次世代育成支援計画での一時預かりの目標達成率が300%を越えているという指摘をした覚えがあります。一時預かりの定員を3倍以上受け入れているということになりますが、その点について、今回のアンケートでその数値がここに現れているといった点があれば説明してほしい。</p>
事務局	<p>第1回会議資料では一時預かりが定員を超えて300%を受け入れたという主旨ではない。目標値に対して3倍くらいの受け入れを行ったということで、本日の資料の中では、まだその数値に関するものは出てきていません。</p>
会長	<p>受け入れ体制を整えたので、そのニーズが減ったということも考えられるでしょうか。</p>
事務局	<p>前回資料は、数年前に設定した計画の達成率で、時系列の中での動きとして、ニーズそのものが減っているとは考えにくいと思います。</p>
会長	<p>特段のご意見がなければ、次の議題に進みます。</p>

事務局	(2) ニーズ調査結果を踏まえた計画への反映について ～ 事務局より資料2に基づき説明 ～
会長 委員	<p>ご質問、ご意見はありますか。</p> <p>資料1も含めての意見ですが、今回の計画の中で重要なのは量的なものという考えでありますが、実際所沢市の中で、この部分に対してはニーズが高いけれども対応できてない、だからその部分の対策を計画の中で立てていくという趣旨だと考えています。そういう中で、例えば、資料1の小学生の部分で児童館がほうかごところと比べるとニーズが少ないという説明がありましたが、確かにほうかごところが素晴らしいという点も認識しておりますが、一方で児童館については対象年齢が0歳から18歳までであり、異世代交流ができるなど、ニーズに対応するよりも地域において子育てをどのようにコーディネートさせていくかという点で重要だと考えております。そういう中で、必ずしもニーズ調査で現れない部分についても、計画から切り捨てていくのではなく、ニーズは対応するけれども、ニーズのないものについてもどういった役割を持って地域での子育てのどういう位置づけになるかは、是非考えていただきたいと思います。所沢市の考える子育てをどのようにコーディネートしていくかという点についても検討していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>国の求めているニーズの量、需要と供給という考え方と委員からのご指摘のそこに現れてこない市の方針をともに、計画に盛り込んでいくという方向で検討していきたいと思います。この後、議題3でも考えを示したいと思います。</p>
委員	<p>資料2の1号認定、2号認定などの説明で、保育の必要性がある子どもについて「保育標準時間」と「保育短時間」は分けないとありますが、これは所沢市がこのように考えているということによろしいでしょうか。地域型保育事業についても0歳から2歳までについては、小規模保育所をとということもありますが、小規模保育事業はA型、B型、C型と分けないのでしょうか。</p>
事務局	<p>「保育標準時間」と「保育短時間」を分けないということは、計画上では分けないという意味です。ただ、地域の実情に応じて区分することも可能としておりますので、自治体の裁量において様々になるかと思っておりますので、今後検討を進めていきたいと考えます。</p> <p>計画の中でどの程度の保育量が必要なのかを示す際に、地域型保育事業について、施設の区分、運営者やその要件による区分を計画の中で細かく行う予定はありません。A型をどのくらい整備する、B型をどのくらい整</p>

	<p>備するではなく、総体としてどの程度の量を確保するかという計画になりますので、ご理解をお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>計画が具体化されてきたときには、小規模保育事業について、所沢市はA型だけでいくといった方針は示すのでしょうか。</p>
事務局	<p>計画では、供給量ということで地域型保育事業が総数で何人というかたちで示すこととなります。その中でA型、B型、C型は国の方でも枠組みを決めておりますので、所沢市がAだけでいくのか、Cも入れるのかといったことについては、この事業計画とは別の議論が必要だと考えております。別の議論の場は、最終的には条例で地域型保育事業に関する基準を定めていきますので、議会等の場ということになるとと思います。</p>
委員	<p>認定区分について、8頁をみると、3歳から5歳までの保育の必要性がある2号認定は、「幼稚園希望」と「認定子ども園・保育所」の2種類あるがどういう意味なのか分かりにくいので説明をしていただきたい。</p>
事務局	<p>家庭の類型でタイプC(フルタイムとパートタイム)としても、2号認定を受けたとしても、幼稚園を利用したいといったニーズがあるわけです。保育認定の中でも、幼稚園を利用したい場合や保育所・認定こども園を利用したい場合がそれぞれあり、その希望によって量の見込みを区別していく必要があります。</p>
委員	<p>タイプCの就労時間で「月120時間以上+下限時間～120時間」との意味が分かりません。</p>
事務局	<p>下限時間は、自治体における保育の必要性の下限時間として48時間から64時間までの間で市が定めることができるとされております。</p>
会長	<p>5頁の就労時間の示し方が分かりにくいです。</p>
事務局	<p>タイプCで説明しますと、フルタイムとパートタイムですから、フルタイムの方は特に時間帯の区分はなく、パートタイムの場合で月120時間以上(ほぼ週30時間以上)のかたは含めて、さらに下限時間から120時間の方も含めていくという考え方です。タイプC'についてみますと、月下限時間未満の方も含めるということで、例えば月に48時間程度のパート就労の方も含めるということになります。</p>
委員	<p>タイプC'は、保育園に入れなから、幼稚園希望ということでしょうか。</p>
事務局	<p>2号認定が、施設ごとの区分に分かれているわけではありません。確かにC'は、保育園の入所要件に満たないので幼稚園に行くというのがありますが、もともと幼稚園を希望される方もおりますので、希望される方を区分するというのが、もとの趣旨です。</p>
会長	<p>表現で、「…の一部」など、非常に分かりにくいので修正をお願いした</p>

	<p>いと思います。図表4でもブランクがあったりしますが、分かりやすいように修正をお願いしたいと思います。表現として、「潜在的な」というのも分かりにくいと思います。</p>
事務局	<p>ニーズ調査結果から、その意向に基づいて、洗い出してくため、「潜在的」という表現にしています。</p>
会長	<p>分かりにくい点は改善していただくとともに、委員から後でこのような点を説明してほしいといった意見もあろうかと思しますので、ここで議論を打ち切るのではなく、委員からの意見を聞いた上で対応をしていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>そのように対応したいと思います。この場で分かりにくい点などあれば、今回の会議の後に、またご意見シートを送らせていただき、ご意見をいただき対応していきたいと考えています。</p>
会長	<p>是非そうしてください。ご意見がなければ、次の議題に進みたいと思います。</p>
	<p>(3) 『(仮称)所沢市子ども・子育て支援事業計画』の位置づけと枠組みについて ~ 事務局より資料3に基づき説明 ~</p>
事務局	<p>先ほどの委員のご指摘と関連して、量的なものだけでなく総合的な計画としていくということで結構だと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>2頁の任意記載事項について、資料1での説明でも育休の取得が非常に高かったので、是非記載していただきたい。2番目の事項、3番目の労働者の職業生活と家庭生活の両立についてもかなり重要だと考えていますので、是非記載していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>任意記載事項については、次回の会議でも方針をお示しできると思いますが、関係部署との調整の上、是非記載する方向で検討を行っていきたいと考えます。</p>
委員	<p>今後、事業計画を進めて行くにあたって、さまざまな保育施設、特に未就学の保育施設の多様化が進んでいくと思いますが、やはり量をとにかく確保すればいいという計画にならず、今後子どもたちがどのように育っていくことが大事なのか、どういう環境を整備していくことが大事なのかということで、例えば今保育園で働いている現場の保育士の方からどういうことが大事なのかとか、幼稚園の先生からも現場の子どもたちの様子や思っていることなど、直接子どもたちと接している方の声を聞く機会を持っていただきながら、事業計画をよりよいものにできたらいいと思います。</p>

事務局	<p>この子ども・子育て会議がそのような場とされているとは思いますが、現場の方が多く参加されているとは思えないですし、ニーズ調査結果もありますが、是非現場の声を反映させていただければと思います。</p> <p>この計画の策定にあたりましては、この会議もそうですし、この会議に出す資料の作成も事務局、関係部署が集まって検討しながら進めております。普段の業務と同様に、関係部署と調整をしております。保育所なら保育課、児童館であれば青少年課など、関係部署を通じて現場の意見も吸い上げながら進めております。</p>
委員	<p>参考資料として、幼稚園と保育所の良さを合わせ持つ認定こども園の普及を進めるとか、認定こども園を増やすとか、保護者の事情にかかわらず、子どもが継続して安定した教育・保育を受けられるようにするなどの表現がありますが、国の資料でも児童福祉法第24条1項によって、保育所が位置づけられていますし、国の議論でも保育所での養護と保育の中で、養護には教育も含まれているという議論もありますので、参考資料として、もっといろいろなものを入れてほしいと思います。</p>
委員	<p>委員のご指摘のとおり、幼保連携型の認定こども園に移行することだけが全てといった印象を持ちます。保育所も充実させる、幼稚園も充実させる、認定こども園もさらに充実させるという制度にしていかななくてはならないと思います。保育園や幼稚園も充実させるといった議論に持って行っていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>計画の位置づけと枠組みを説明するにあたって、参考資料として添付させていただいたのですが、この部分は国の資料であり、今後所沢は所沢として独自で検討していく必要があると考えています。参考資料としては適切でなかったかも知れませんが、ご理解していただきたいと思います。</p>
会長	<p>これまでの資料をみると国としての方向性も理解できますが、所沢市としての地域性や実情など踏まえながら実のある議論をしていきたいと考えます。先ほど、いろいろな部署と調整をして検討するとのことでしたが、その他にヒアリングやパブリックコメントのようなことを実施すると思いますが、そのような意見も反映させていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>(4) その他</p> <p>次回会議は、4月24日(木)午後に全員協議会室で開催します。内容については、本日の会議内容を踏まえた上で、計画の骨子案などについてご検討いただく予定です。</p> <p>平成26年度の会議については、全4回を予定しています。具体的には第1回を4月24日、第2回を5月下旬、第3回を7月中旬、第4回を1</p>

委員	<p>0月中旬に予定しています。第3回までに計画案をご審議いただき、8月頃に予定しているパブリックコメントを踏まえて、第4回で最終案を確定する予定であります。</p> <p>来年度4回で、8月までにパブリックコメントを実施するとなると、日程等厳しいのではないかと思います。パブリックコメント実施前の3回で大きなことが審議できるのか不安です。本日も、一つの事柄についてもいろいろな背景があり、それをきちんとやっていかないと、子どもたちがかわいそうだと思います。かわいそうというよりは、子どもたちに対して絶対良いものにしたいと思っていながら、時間がなくてバタバタと決めてしまっただけなのではないかと思えます。日程はずらせないのでしょうか。27年度からの開始は分かっていますが、時間が足りないという印象です。</p>
委員	<p>委員のお気持ちは、すごく良く分かります。今回も予告編だと思っています。これからこういう話題の情報が、今回のように資料として次々提出されて、それを処理して意見としてまとめてくださいということが分かりましたが、資料2でも、実際、児童数はどんどん減っていく、しかしニーズは増えていく、どこで止めればいいのかなど、今後、実際の数字を処理した資料で、委員は議論しなくてはならないという状況だと思います。27年度開始に向けて、なかなか大変なスケジュールだとは思いますが、覚悟を決めなければならないと思います。こういう気持ちで会議に臨んでいかなければならないと思いますし、委員として情報をシェアしておかなければならないことと、個別に事務局に問い合わせるといった工夫をしていかなければならないと思います。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、3回というのが決して十分だとは思っておりませんが、なるべくパブリックコメント実施前の3回の会議の中できちんとしたものがつくれるように、事前に事務局でも対応して、それに対して委員のご意見をいただきながら検討を進めていきたいと思っております。事務局としても努力したいと考えておりますし、委員の方々もご意見があれば事務局にお知らせいただきたいと思います。国からの期限も決まっておりますので、事務局も努力してまいります。委員の皆様のご協力の程お願いいたします。</p>
委員	<p>4月24日の会議は午後からということですが、午前中ですと2時間しか取れませんが、午後からの場合はどのくらいの会議時間を予定していますか。</p>
事務局	<p>午後に設定したからといって、限りなく会議を開催するというわけではありませんが、時間が来たから終わりというのではなく、充分ご議論いただけるように午後に設定しました。今後の会議は、午後開催で設定してい</p>

委員	<p>きたいと考えております。</p> <p>先ほどの委員のご意見で、来年度の保育認定は秋ですが、当初は8月に4回目の会議が予定されていましたが、10月ということで10月に最終案が決まり、認定を受けるまでの時間がないと思いますので、もう少し余裕があったらいいかなと思います。また、当初8月予定が10月になった理由をお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>パブリックコメントを経て、市民の意見を反映させていただくということで10月に予定しています。また、作業的に会議と会議の間が短くなるといった問題もあって10月の予定とさせていただきました。</p>
会長	<p>様々な意見はあるでしょうが、この会議でも事務局の方がよくやってくださっていて、そのおかげで会議の進行もスムーズに進んでいると思います。事務局の努力も信用しつつ、委員の方々からも子どもたちのためにといい気持ちが伝わってきますので、変な方向には進まず、真摯に短い時間の中できっちりと議論を進めていきたいと思います。そういう中で最後に見切り発車になるようだったり、不十分だと感じたりするようであれば、そのときに考えたいと思います。なるべくコンパクトに議論していきたいと思います。それでは、本日の議事はこれで終わりたいと思います。</p>
副会長	<p>副会長挨拶</p> <p>～閉 会～</p>